
残す者への手向け

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

残す者への手向け

【Nコード】

N65750

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

『命ある者は、いつか死ぬ』当たり前的事だ。

（前書き）

命はいつか消え去ります。しかし残された命に傷を残さないようにしたいものです。

『形ある物はいつか壊れる』

それと同じように

『命ある者はいつか死ぬ』

これは、当たり前的事だ。

皆さんは、形ある物が壊れる瞬間を目にした事はあるだろう。
茶碗やカップが割れたり、車が事故で凹んだり、もっと身近で言えば、鉛筆が短くなったり、消しゴムが小さくなったりって。

でも『命ある者』が目の中で『命のあった抜け殻』に変化する瞬間を見た事がありますか？

少し前まで、もがき苦しみ、助けを求め、寝ていても、起きていても、苦しみから解放されず、もがきにもがき苦しんで、突然「パタ」っと動きが止まる瞬間を。

この瞬間、約1〜2秒程でしょうが、生きてるこちらの時間も止まったように錯覚します。

ドラマや映画なんかである『。。。！』と突然叫ぶ事なんて出来ません。今、目の前で起こった事が現実なのか、非現実なのかを判別する静止時間が看取る者に訪れるのです。

私は今まで、多くの命が抜けていく瞬間に立ち会いました。

だから何？って思われるかもしれません。

私はだから……と伝えたい事はありません。

しかし、これだけは言わせて下さい。命の抜ける瞬間、出来る事なら笑って下さい。どんなに苦しくても、どんなに痛くても、どんなにまだ生きたくても、笑って下さい。

……それが、残された命への手向けです。

（後書き）

この手向けで残された命に安堵が生まれるのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6575o/>

残す者への手向け

2010年11月2日03時40分発行